2024/8/18

ルカの福音書　講解メッセージ⑲

『ルカの福音書 7 章 29-50 節　香油を塗った女性』

■信じる者と信じない者

「ヨハネの教えを聞いた民はみな、取税人たちでさえ彼からバプテスマを受けて、神が正しいことを認めました。ところが、パリサイ人たちや律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けず、自分たちに対する神のみこころを拒みました。」（ルカ 7:29-30）

神はヨハネを通して、バプテスマの重要性を教えてくださいました。バプテスマを受けるのは、神の御心にかなったことです。そして、このことを通して、神のことばを信じる者と信じない者に分かれました。そこでイエス様は次のように語られました。

「それでは、この時代の人々を何にたとえたらよいでしょうか。彼らは何に似ているでしょうか。広場に座り、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。 『笛を吹いてあげたのに、 君たちは踊らなかった。 弔いの歌を歌ってあげたのに、 泣かなかった。』バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まずにいると、あなたがたは『あれは悪霊につかれている』と言い、人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。しかし、知恵が正しいことは、すべての知恵の子らが証明します。」（ルカ 7:31～35）

イエス様は、神のことばを信じない者たちを、何を言っても応答しないし、ことごとく拒絶する子どもたちにたとえられました。彼らは、バプテスマのヨハネが何をしても批判し、イエス様が何をしても批判するというのです。

つまり、人間というものは、初めから結論を持っていて、自分の信じたいことしか信じないものなのです。パリサイ人たちがイエス様を拒絶するのは、彼らが行いによって人の価値は決まると信じていたからです。彼らにとって、「信じるだけで救われる」という、バプテスマのヨハネやイエス様が教えることは、あり得ないことだったのです。

バプテスマを受けたのは、自分が罪深いと自覚している人たちです。自分は正しい行いをしていると信じるパリサイ人たちはバプテスマを拒みました。こうして、神のことばを聞いても、信じる者と信じない者とに分かれることになったのです。

■罪深い女

「さて、あるパリサイ人が一緒に食事をしたいとイエスを招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。すると見よ。その町に一人の罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持って来た。そしてうしろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。イエスを招いたパリサイ人はこれを見て、「この人がもし預言者だったら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っているはずだ。この女は罪深いのだから」と心の中で思っていた。」（ルカ 7:36-39）

イエス様が、あるパリサイ人の家で食事をしていると、ある女性がやってきました。彼女は、町中の誰もが知っている罪深い女性でした。その彼女が、イエス様がパリサイ人の家にいるということを聞きつけて、わざわざやってきて、ただ泣きながらイエス様の足に香油を塗ったのです。

彼女の涙は、いったい何の涙だったのでしょうか。悲しみの涙でしょうか。喜びの涙でしょうか。この行為は、自分の罪を後悔し、赦しを求めて泣いているとされることが多いのですが、本当にそうなのでしょうか。このことは、後に明らかになります。

さて、一連の様子を見ていたパリサイ人は、イエス様が何も言わずに彼女を受け入れている様子を見て、この女が汚らわしい者であることに気がつかないなんて、イエス様は偽預言者だと決めつけました。彼らが罪深い者と交わるなど、あり得ないことだったからです。イエス様はそのことに気づき、次のようにお話しになりました。

「するとイエスは彼に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがあります」と言われた。シモンは、「先生、お話しください」と言った。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリ、もう一人は五十デナリ。彼らは返すことができなかったので、金貸しは二人とも借金を帳消しにしてやった。それでは、二人のうちのどちらが、金貸しをより多く愛するようになるでしょうか。」シモンが「より多くを帳消しにしてもらったほう

だと思います」と答えると、イエスは「あなたの判断は正しい」と言われた。」（ルカ 7:40-43）

1 デナリは当時の 1 日の日当ですから、大変大きなお金です。このたとえを通してイエス様は、多く赦された者は多く愛するようになることを確認なさいました。

「それから彼女の方を向き、シモンに言われた。「この人を見ましたか。わたしがあなたの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、彼女は涙でわたしの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐってくれました。あなたは口づけしてくれなかったが、彼女は、わたしが入って来たときから、わたしの足に口づけしてやめませんでした。あなたはわたしの頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、彼女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。ですから、わたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」（ルカ 7:44-47）

イエス様は、シモンのしたこととこの女性のしたことを比べて、それは彼女が赦された罪の大きさを知っているがために、大きな愛を抱くようになったのだと教えられました。シモンのおこないは立派なものでしたが、イエス様に対する愛は小さなものでした。しかし、この女性の愛は比べ物にならないくらい大きいものでした。ということは、この女性は多くの罪が赦された経験をしたということなのです。つまり、先ほどの女性の涙は、罪を後悔し赦してほしいという懺悔の涙ではなく、赦された感謝と喜びを表しているものなのです。

そして彼女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。（ルカ 7:48）

イエス様は彼女に向かって、「赦します」ではなく、「赦されています」と言いました。彼女の行いによって赦したのではなく、彼女はすでに赦されているということです。この女性は、自分の罪深さを知っており、苦しみを抱えていました。そして、神の呼びかけに応答し、助けを求めた時、言葉では言い表せない感謝が満ちあふれてきたのです。そして、イエス様のことばによって、それが、罪が赦されたことによる喜びであったことを知ったのです。その罪の赦しは言葉によるものではなく、神との関係の中で罪が赦され、理屈抜きに喜びで満たされるという経験を、彼女はしていたのです。

イエス様のことばによって、彼女は「罪が赦されていたんだ。だから、感謝があふれたのだ。」と知ったのです。
罪が赦されると神への愛が生まれます。罪が赦された経験がなければ、愛は生まれません。彼女は、神への愛が生まれたことによって、罪が赦されたことを知りました。そして、罪が赦される経験を積めば積むほど、神への愛は深まり、増し加わります。しかし、自分の罪を認めず、神を自分の願いを聞いてくれる奴隷のように考えているなら、神への愛は生まれません。
神は私たちの罪、苦しみを赦してくださる医者です。罪に気づかない限り、神との正しい関係を気づくことはできません。

すると、ともに食卓に着いていた人たちは、自分たちの間で言い始めた。「罪を赦すことさえするこの人は、いったいだれなのか。」
イエスは彼女に言われた。「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」（ルカ 7:49～50）

「信仰（ピスティス）」という言葉は、「誠実な態度」を意味することばです。それは、神の呼びかけに応答する信仰のことです。自分の肉の願望を満たそうとして神に頼ることも「信仰」と呼びますが、聖書が教える信仰とは、神の呼びかけに応答することです。つまり、信仰には、神から出た信仰と肉から出た信仰とがあるのです。そして、イエス様は彼女に対して、あなたは神の呼びかけに応答したことで救われたと言われたのです。
イエス様が私たちに伝えたいこと、それは、あなたが自分の罪をどれだけ認めることができるか、そして、その罪を赦される経験をどれだけ積むことができるか、それが神への愛を生み出すということです。聖書が教える第一の戒めは、「神を愛せよ」ということです。神が、私たちに「心を尽くし思いを尽くしすべてを尽くして神を愛せよ」と言われるのは、神が真剣にあなたを愛しているからです。神以上にあなたを愛している方はいません。その愛を受け取るように、神は望んでおられるのです。
では、どうすれば神の愛を受け取ることができるのでしょうか。それは、罪が赦された経験をすることです。そのために神はあなたの罪を徹底的にあぶりだそうとなさいます。あなたが罪の思いに責められるのは、その罪を神の前に言い表して赦しを得させるため、そして、そのことによって、神を愛せるようにさせるためです。

6 もし私たちが、神と交わりがあると言いながら、闇の中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであり、真理を行っていません。
7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。
8 もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。
9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。
10 もし罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とすることになり、私たちのうちに神のことばはありません。（Ｉヨハネ１：6～10）

神は、あなたには罪があると言っておられます。その罪を赦すために、神は十字架に架かられたのです。ですから、罪を言い表すことによって神との関係を築くことができるのです。神はなんとしてもあなたが罪で苦しんでいることに気づかせたいのです。神は、心の中でさばくのと人を殺すのは同じ罪だと言われます。それは、両方とも心が神に向いていないという点で同じなのです。ここまでして、神が私たちの罪を徹底的にあぶりだすのは、さばくためではなく、赦すためです。神はさばく方ではなく、私たちを赦し、守る方です。それは、罪の原因は悪魔のしわざであることを知っているからです。
神はあなたをなんとしても助けたい、いやしたいと願って、徹底的に罪を暴きます。それは、罪を赦されることによってあなたが神を愛せるようになり、あなたとの関係を築きたいと願っておられるからです。なぜなら、神はあなたを誰よりも愛しているからです。神はあなたを愛し、あなたのためにいのちを差し出し、十字架に架かったのです。

ある時、姦淫の現場でとらえられた女性がイエス様の前に連れてこられました。彼女をどうすればよいかとたずねられると、イエス様は「あなたがたのうちで罪のない者が最初に彼女に石を投げなさい。」と言われました。そうすると、そこにいた人々は、年長者から順に立ち去って誰もいなくなり、イエス様と姦淫の現場でとらえられた女性の二人だけになりました。イエス様が「あなたを罪に定める人はいなかったのですか」と質問すると、彼女は「だれもいません。」と答えました。そしてイエス様は、「私もあなたを罪に定めません」と言ったのです。

イエス様がおられると、誰もさばけないのです。この世界では悪いことをすると裁かれ、批判されます。しかし、イエス様はあなたを弁護し、守ってくださいます。だから、誰もさばけないのです。これが、罪が赦されるということです。
そして、神のさばきは、あなたと神の二人だけの間で行われます。そして、そのさばきは無罪です。これが神のさばきです。赦されたという体験は、神との間で、1 対 1 で行われるのです。そして、神が守るので、誰もさばくことができなくなるのです。これが罪の赦しです。

私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。（Ⅰヨハネ 2：1）

「御父の前で」と訳されていますが、原文では「共に」という意味の「プロス」ということばが使われています。父なる神とイエス様が一緒になって守ってくださるのですから、誰もさばくことができなくなるのです。
ただし、ただ一人だけあなたをさばくことができる人がいます。それは自分自身です。しかし、イエス様はそれすらお許しになりません。なぜなら、神の心は広く大きいからです。自分は小さいから自分をさばくのです。

たとえ自分の心が責めたとしても、安らかでいられます。神は私たちの心よりも大きな方であり、すべてをご存じだからです。（Ⅰヨハネ 3:20）

自分を自分で責めるのは間違いです。なぜなら、あなたが苦しむ罪の原因は、悪魔が持ち込んだ死であって、あなたのせいではないからです。だから、神はあなたを赦し、救い、いやしてくださるのです。

罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。（Ⅰヨハネ 3:8）

罪とは神と分離した状態です。悪魔は私たちを神と分離させ、死をもたらしました。人は、その不安から見える安心をむさぼるようになり、罪を犯すようになったのです。これが罪の行為であり、原文では複数形で罪の状態とは分けて書かれています。

神の子が現れたのは、この死のとげを打ち壊すためです。だから、神はあなたを守り、自分で自分をさばくことすら許さないのです。神はあなたに、自分を責めたり、自分で自分を傷つけたりするのはやめるように言われます。
つまり、イエス様の十字架はあなたのためです。みんなのためではなく、たったひとりの苦しむ者のためにイエス様は十字架に架かられたのです。

1 匹の羊
イエス様は、たとえ話の中で、100 匹の羊を飼っているうちの 1 匹が迷い出てしまったら、その 1 匹を探しに行くと言われました。残された 99 匹は、この世界を表します。互いを見て、安心しようとしています。しかし、迷い出た 1 匹は苦しくて仕方がない者です。この世界から罪人と言われ、自分で自分を責め、はみ出してしまった人間です。するとイエス様は、この世界を置いても、苦しみの中にある 1 匹を助けに行くのです。それが神の思いであり、その集大成が十字架です。
キリストの十字架は、一人一人あなたのために掛かられた十字架です。十字架の前にいるのはあなただけで、他の人は関係ありません。そして、イエス様は「これ以上自分を責めるのはやめなさい。私はあなたを赦している。」と言われるのです。このことを体験する時、神への愛を持つことができるようになります。それが、神と私たちの正しい関係です。